



System Management Services (SMS) 1.6 ソフトウェア ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-6421-11
2006 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, docs.sun.com, Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	System Management Services (SMS) 1.6 Software Release Notes
	Part No: 819-4663-11
	Revision A



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. System Management Services (SMS) 1.6 ソフトウェアご使用にあたって 1
 - SMS 1.6 の新機能 1
 - AVL 2.0 FS-2 の機能および要件 1
 - SMS 1.6 ソフトウェアのパッチ 2
 - ソフトウェアの要件 2
 - ドメインの要件 3
 - SC の要件 4
 - 一般的な問題 6
 - smsconnectsc コマンド 6
 - バージョン切り替えの有効なパス 6
 - SMS での ssh の使用 7
 - SMS マニュアルの Part No. 7
2. SMS 1.6 ソフトウェアの既知の問題 9
 - SMS 1.6 ソフトウェアの CR 9
 - 関連製品の問題 9
 - Solaris OS に関連する問題 9
 - Solaris Security Toolkit 4.2 ソフトウェアに関連する問題 11

はじめに

本書では、System Management Services (SMS) 1.6 ソフトウェアの固有の情報について説明します。

お読みになる前に

本書は、UNIX® システム、特に Solaris™ オペレーティングシステムの実務的な知識を持つ Sun Fire™ システム管理者を対象としています。このような知識がない場合は、使用しているシステムに付属の Solaris のユーザー向けおよびシステム管理者向けのマニュアルを読み、UNIX システム管理のトレーニングの受講を検討してください。

次世代の Sun Fire サーバーファミリのメンバーは、すべて疎結合クラスタとして構成できます。ただし、現時点では、本書では Sun Fire クラスタ構成のシステム管理について説明していません。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<code>sc_name:sms-user:></code> または <code>domain_id:sms-user:></code>
UNIX の C シェルのスーパーユーザー	<code>sc_name:#</code> または <code>domain_id:#</code>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	<code>></code>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェルのスーパーユーザー	<code>#</code>

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を実行します。 <code>% You have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	<code>% su</code> <code>Password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の変数部分。実際の名前や値と置き換えてください。	<code>rm <i>filename</i></code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>% grep ``#define \ XV_VERSION_STRING'</code>

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

オンラインのマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://www.sun.com/documentation>

用途	タイトル	Part No.	形式	場所
ソフトウェアの概要	『Sun Fire ハイエンドシステムソフトウェアの概要』	819-6409	PDF HTML	オンライン
ソフトウェアのインストール	『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』	819-6414	PDF HTML	オンライン
管理者マニュアル	『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』	819-6418	PDF HTML	オンライン
リファレンス (マニュアルページ)	『System Management Services (SMS) 1.6 リファレンスマニュアル』	819-6419	PDF	オンライン
オプション	『Sun Fire ハイエンド/ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』	819-3187	PDF HTML	オンライン
	『OpenBoot™ 4.x Command Reference Manual』	816-1177	PDF HTML	オンライン
	『Sun Fire 15K/12K システムサイト計画の手引き』	817-3201	PDF HTML	オンライン
	『Sun Fire E25K/E20K システムサイト計画の手引き』	817-6855	PDF HTML	オンライン
	『Securing the Sun Fire 12K and 15K Domains』	817-1357	PDF HTML	オンライン
	『Securing the Sun Fire 12K and 15K System Controllers』	817-1358	PDF HTML	オンライン

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『System Management Services (SMS) 1.6 ソフトウェアご使用にあたって』、
Part No. 819-6421-11

第1章

System Management Services (SMS) 1.6 ソフトウェアご使用に あたって

この章では、Sun Fire™ ハイエンドシステム上の System Management Services (SMS) 1.6 に固有の情報として、次の項目について説明します。

- 1 ページの「SMS 1.6 の新機能」
- 2 ページの「ソフトウェアの要件」
- 6 ページの「一般的な問題」
- 7 ページの「SMS マニュアルの Part No.」

SMS 1.6 の新機能

SMS 1.6 では、次の新しい機能が追加されました。

- SC での Solaris™ 10 OS のサポート
- Solaris Security Toolkit (SST) 4.2 ソフトウェアのサポート
- UltraSPARC™ IV+ 1.8-GHz プロセッサのサポート
- 4.5G バイトのスワップ空間のサポート
- Availability 2.0 Feature Set 2 (AVL 2.0 FS-2) 機能のサポート

AVL 2.0 FS-2 の機能および要件

SMS ソフトウェアの AVL 2.0 FS-2 機能には、次の機能拡張要求 (RFE) に記載された機能が含まれています。

- 6277467
- 6281071
- 6281100

AVL 2.0 FS-2 は、次に示す SMS ソフトウェアの拡張機能を提供します。

- dsmd デーモンは、ドメインからの要求を処理して Solaris Fault Management Architecture (FMA) に情報を提供できます。この情報には、システムボード上の DIMM のパーツ番号およびシリアル番号と、プラットフォームのシャーシシリアル番号 (CSN) が含まれます。
- efhd デーモンは、UltraSPARC IV+ プロセッサ上の障害を診断できます。また、efhd は、FMA が動作するドメインへのデータパス内のパリティイベントに関する情報と、efhd がデータパス上のイベントを診断したかどうかを示す情報を提供できます。

注 – AVL 2.0 FS-2 機能は、Solaris 10 1/06 OS ではサポートされていません。AVL 2.0 FS-2 機能を使用するには、それよりあとにリリースされた Solaris 10 OS をダウンロードしてインストールする必要があります。

SMS 1.6 ソフトウェアのパッチ

SMS 1.6 に適用できるパッチは、次のとおりです。

- 123161-02 (CR 6413613、6418588 を修正)
- 123172-02 (CR 6401382 を修正)
- 123300-01 (CR 6406078 を修正)

これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> で入手できます。

ソフトウェアの要件

この節では、次の項目について説明します。

- 3 ページの「ドメインの要件」
- 4 ページの「SC の要件」

使用しているバージョンの Solaris OS に適したパッケージについては、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。

ドメインの要件

この節で説明するソフトウェア要件は、SMS 1.6 のソフトウェアの最小要件です。これらの要件はオペレーティングシステムにより異なります。

注 – この節で示すソフトウェアバージョンおよびパッチレベルはすべて、SMS 1.6 でサポートされる最小バージョンです。

Solaris 8 OS の要件

注 – SMS 1.6 は、SC 上では Solaris 8 OS をサポートしていません。Solaris 8 OS は、ドメインでのみサポートされています。

ドメイン上の Solaris 8 OS には、Solaris 8 2/02 OS release 以降を使用する必要があります。

注 – Solaris 8 OS は、UltraSPARC IV+ プロセッサ上で動作するドメインではサポートされていません。

Solaris 9 OS の要件

ドメイン上の Solaris 9 OS バージョンでは、次の最小要件を満たす必要があります。

- Solaris 9 4/04 OS release
- パッチ (サポートされる最小バージョン):
 - 113027-05
 - 112233-09

注 – UltraSPARC IV+ 1.8 GHz プロセッサを使用するシステムでは、Solaris 9 OS のサポートされる最小バージョンは Solaris 9 9/05 です。

Solaris 10 OS の要件

ドメイン上の Solaris 10 OS バージョンでは、次の最小要件を満たす必要があります。

- Solaris 10 3/05 (UltraSPARC III+, UltraSPARC III++, および UltraSPARC IV での最小要件) または Solaris 10 3/05 HW1 (UltraSPARC IV+ での最小要件)。Solaris 10 1/06 は、すべてのプロセッサでサポートされています。
- パッチ (サポートされる最小バージョン):
 - 121946-01
 - 121286-02

SC の要件

SMS 1.6 では、SC 上の Solaris 9 OS および Solaris 10 OS に対応して異なるバイナリパッケージがあります。使用している OS バージョンに適した SMS パッケージをインストールしてください。使用しているバージョンの Solaris OS の正しいパッケージについては、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。

この節で説明するソフトウェア要件は、SMS 1.6 のソフトウェアの最小要件です。これらの要件はオペレーティングシステムにより異なります。

注 – この節で示すソフトウェアバージョンおよびパッチレベルはすべて、SMS 1.6 でサポートされる最小バージョンです。

Solaris 9 OS の要件

SMS 1.6 の Solaris 9 OS バージョンでは、次の最小要件を満たす必要があります。

- Solaris 9 4/04 OS release
- 両方のシステムコントローラ (SC) に同じバージョンの SMS ソフトウェアがインストールされていること
- 更新バージョンとパッチを含め、Solaris OS の Entire Distribution ソフトウェアグループが両方の SC にインストールされていること。すべてのパッチは、下記から入手できます。

<http://sunsolve.sun.com>

- パッチ (サポートされる最小バージョン):
 - 113027-03
 - 111712-12

Solaris 10 OS の要件

SMS 1.6 の Solaris 10 OS バージョンでは、次の最小要件を満たす必要があります。

- Solaris 10 1/06 OS release
- 両方のシステムコントローラ (SC) に同じバージョンの SMS ソフトウェアがインストールされていること
- 更新バージョンとパッチを含め、Solaris OS の Entire Distribution ソフトウェアグループが両方の SC にインストールされていること。すべてのパッチは、下記から入手できます。

<http://sunsolve.sun.com>

- パッチ (サポートされる最小バージョン):
 - 121946-01
 - 121286-02

一般的な問題

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムの SMS に関連する一般的な問題について説明します。

smsconnectsc コマンド

smsconnectsc は、遠隔 SC がハングアップして、login では正常にアクセスできない場合に使用するためのコマンドです。smsconnectsc を使用してローカル SC から遠隔コンソールセッションを作成すると、ローカル SC は監視能力と監視機能を失う場合があります。システムの回復という明確な目的がないかぎり、smsconnectsc を使用しないでください。

バージョン切り替えの有効なパス

次の例外を除き、smsversion スクリプトを使用して、システムにインストールされている SMS の任意のバージョンに切り替えることができます。

- SMS 1.4 から SMS 1.4.1 へのアップグレードは永続的な移行となります。つまり、ひとたび SMS 1.4.1 にアップグレードすると、SMS 1.4 に戻すことはできません。
- SMS 1.4 から SMS 1.4.1、SMS 1.5 にアップグレードしてから SMS 1.6 にアップグレードする場合、SMS 1.4 または 1.4.1 に切り替えて戻すことはできません。SMS 1.5 に切り替えて戻すことのみ可能です。
- SMS 1.5 から SMS 1.6 にアップグレードする場合、SMS 1.5 に切り替えて戻すことができます。
- SMS とオペレーティングシステムの両方をアップグレードする場合、まずオペレーティングシステムの旧バージョンを再インストールしないと、SMS の旧バージョンに切り替えることはできません。
- SMS 1.6 から SMS 1.5 に切り替える場合、Solaris Security Toolkit を使用して SC 上で手動でセキュリティー強化を元に戻し、続いて再度セキュリティーを強化して、再起動します。

この SMS バージョンの切り替えは、同じバージョンの Solaris OS が動作している場合에만適用されます。Solaris OS のバージョンをアップグレードした場合は、バージョンの切り替えは適用されません。SMS 1.6 より前のインストール手順については、以前のバージョンの SMS のインストールマニュアルを参照してください。

バージョンの切り替えおよび Solaris OS との関連性については、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。

SMS での ssh の使用

SMS 1.6 パッケージをインストールする前に、SC へのシリアルまたはコンソールアクセス権があるかどうか、または SC 上で ssh が使用できるかどうかを確認します。SMS 1.6 をインストールし、SC を再起動すると、smsinstall スクリプトによって実行されるセキュリティー強化により遠隔アクセスが無効になります。この強化処理が行われるのは、SMS 1.6 にデフォルトでセキュリティー保護を行う機能があるためです。システムで ssh が使用可能でない場合は、コンソールケーブルを使用しないかぎり SC にアクセスできません。

注 – SC で ssh を使用する場合は、SMS コンソールとの不整合を避けるため、ssh のエスケープ文字を変更する必要があります。詳細は、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。

SMS マニュアルの Part No.

このリリースのソフトウェアマニュアルは、以下の Web サイトで入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/High-End_Servers/Sun_Fire_15K/SW_FW_Documentation/SMS/index.html

ファイル名は Part No. になっています。マニュアルタイトルに対応する Part No. は次のとおりです。

- 819-6421-11.pdf — 『System Management Services (SMS) 1.6 ソフトウェアご使用にあたって』
- 819-6414-10.pdf — 『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』
- 819-6418-10.pdf — 『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』
- 819-6419-11.pdf — 『System Management Services (SMS) 1.6 リファレンスマニュアル』
- 819-6409-10.pdf — 『Sun Fire ハイエンドシステムソフトウェアの概要』
- 819-3796-10.pdf — 『Solaris Security Toolkit 4.2 ご使用にあたって』
- 819-3187-10.pdf — 『Sun Fire ハイエンド/ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』

注 – SMS ソフトウェア用として個別の動的再構成 (DR) のユーザーマニュアルは出版されなくなりました。SMS の DR 情報は、現在、『Sun Fire ハイエンド/ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』に含められています。

第2章

SMS 1.6 ソフトウェアの既知の問題

この章では、SMS 1.6 の既知の CR に関する情報と、SMS に影響を与える関連製品の CR に関する情報を示します。次の項目について説明します。

- 9 ページの「SMS 1.6 ソフトウェアの CR」
 - 9 ページの「関連製品の問題」
-

SMS 1.6 ソフトウェアの CR

SMS 1.6 ソフトウェアに関する未解決の CR はありません。SMS 1.6 に適用できるパッチの詳細は、2 ページの「SMS 1.6 ソフトウェアのパッチ」を参照してください。

関連製品の問題

この節では、SMS 1.6 に影響を与えるその他の製品の CR および RFE について説明します。

Solaris OS に関連する問題

エラー処理 FRU ツリー: IO エラー (CR ID 6325788)

この CR は、SC 上に Solaris 10 1/06 OS がインストールされた、SMS 1.6 が動作するシステムに影響を与えます。Solaris 9 OS が動作しているシステムでは発生しません。

prtfru コマンドを実行して、使用しているシステムの現場交換可能ユニット (FRU) を表示したときに、prtfru がエラーメッセージ「Error processing FRU tree: IO error」を返すことがあります。この状態が発生すると、動的 FRUID、COD、および可用性機能が、正常に機能しない場合があります。

回避方法: Solaris 10 1/06 OS のパッチ 121286-02 および 121946-01 をインストールします。すべてのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> から入手できます。

**cfgadm unconfigure N0.SB0::mem を実行すると
panic:recursive mutex_enter、次に panic:panic
sync timeout が表示される (CR ID 6379866)**

UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードを搭載する一部のシステムでは、次のコマンドを使用するとシステムパニックが発生することがあります。

```
# cfgadm -c unconfigure N0.SB0::memory
```

回避方法: この CR にはパッチのリリースが予定されています。すべてのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> から入手できます。

**DR によってドメインから構成解除されたシステムボードが
prtdiag で表示される (CR ID 6298989)**

UltraSPARC IV+ プロセッサを取り付けたボードを、DR を使用してドメインから構成解除しても、prtdiag は引き続きそのボードをドメイン内に存在するボードとして表示します。psrinfo コマンドを実行すると、ボードがドメインに存在しなくなったことが正しく示されます。

回避方法: この問題は Solaris 10 1/06 release で修正されています。ドメインで Solaris 10 3/05 release、Solaris 9、または Solaris 8 が動作している場合は、使用しているバージョンの Solaris OS に対応するパッチをインストールしてください。

- Solaris 10 3/05: パッチ 118822-23 以降をインストール
- Solaris 9: パッチ 117124-11 をインストール
- Solaris 8: パッチ 111335-32 をインストール

これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> から入手できます。

Solaris Security Toolkit 4.2 ソフトウェアに関連する問題

サンプルの ipf.conf* ファイルがすべての UDP トラフィックをブロックする (CR 6307744)

SST 4.2 には、次の 3 つの ipf.conf ファイルがあります。

- /opt/SUNWjass/Files/etc/opt/ipf/ipf.conf
- /opt/SUNWjass/Files/etc/opt/ipf/ipf.conf-15k_sc
- /opt/SUNWjass/Files/etc/opt/ipf/ipf.conf-server

これらのサンプルファイルにはエラーが含まれており、ほかの (先行する) フィルタファイルの規則とともに使用すると、すべての UDP トラフィックをブロックします。

回避方法: この CR に対応するパッチを、<http://sunsolve.sun.com> から入手できます。CR 番号 6307744 でパッチを検索してください。

enable-ipfilter が誤ったパスに構成ファイルをインストールする (CR 6364993)

enable-ipfilter.fin スクリプトを実行すると、ipf.conf ファイルが誤った場所にインストールされます。これにより、ipf.conf 内の規則が SST で使用されない可能性があります。

回避方法: この CR に対応するパッチを、<http://sunsolve.sun.com> から入手できます。CR 番号 6364993 でパッチを検索してください。

ipf.conf の syntax error at "" により ipfilter が起動に失敗する (CR 6394832)

server.secure-driver が実行されると、ipfilter は ipf.conf ファイルの読み込みに失敗します。これにより、次のエラーが表示されます。

```
[May 7 01:20:06 Executing start method ("/lib/svc/method/ipfilter
start")]
syntax error error at "", line 21
/lib/svc/method/ipfilter: load of /etc/ipf/conf into alternate set
failed
Not switching config due to load error.
```

回避方法: この CR に対応するパッチを、<http://sunsolve.sun.com> から入手できます。CR 番号 6394832 でパッチを検索してください。

SST 4.2 に関する詳細は、<http://www.sun.com/documentation> の、Solaris Security Toolkit 4.2 のマニュアルセットを参照してください。

Sun Fire ハードウェアに関連する問題

SPARC および SMC の両方を 1.1.16 に更新する処理中に Starcat Othello+ cp2140 SMC が破壊される (CR 6422438)

Sun Fire システムで SPARCengine CP2000 Model 140 (cp2140) ボード上のファームウェアを version 1.1.16 に更新すると、更新処理中に flashupdate ユーティリティが途中終了し、システムがハングアップする場合があります。

回避方法: この問題は、ファームウェア version 1.1.19 で修正されています。